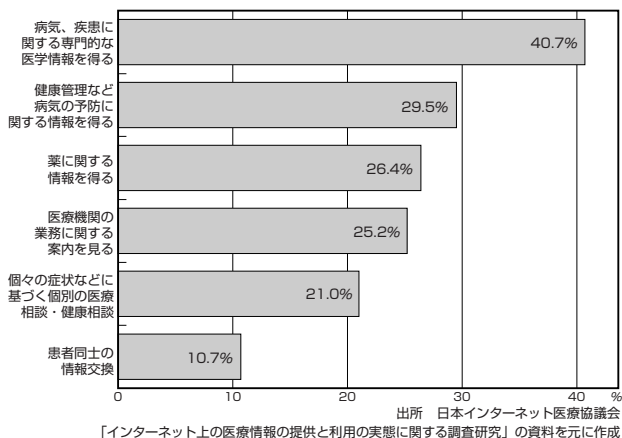


## 第5章 社会全般

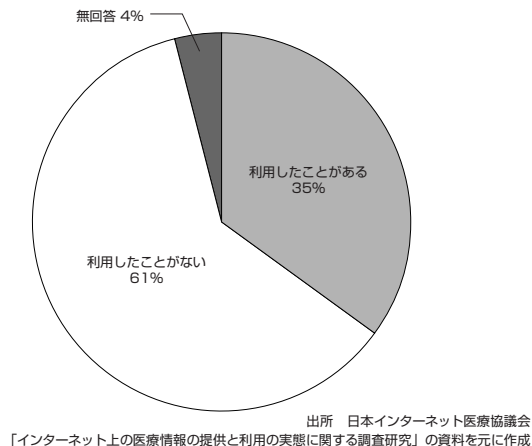
### 医療

## 40%がインターネットで医療情報を得る

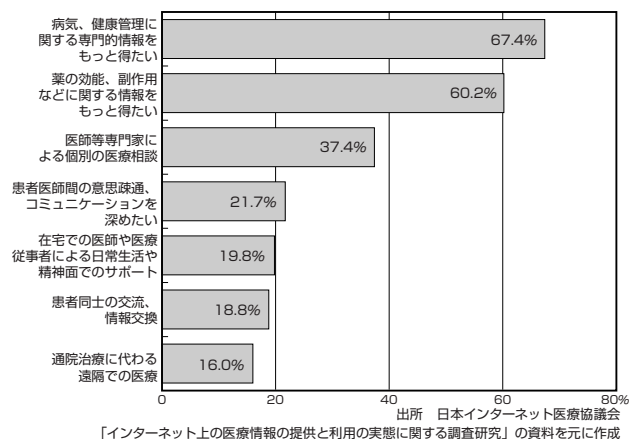
資料3-5-1 インターネットによる医療情報の取得状況



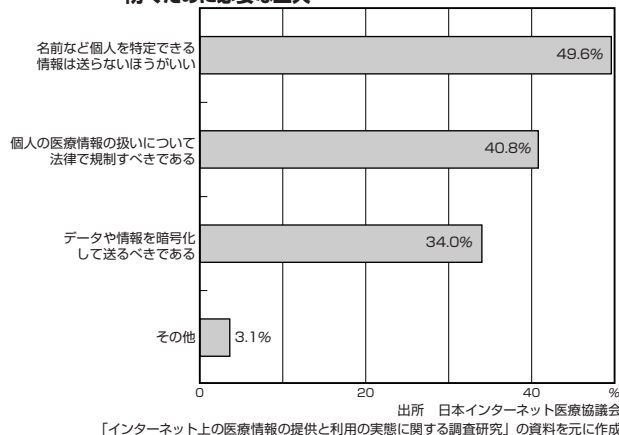
資料3-5-2 回答者のインターネット利用の有無




資料3-5-3 今後医療・福祉において期待するインターネットの利用法



資料3-5-4 個人の医療情報の流通に際し、情報の漏洩・改竄・悪用を防ぐために必要な工夫



### 解説

日本インターネット医療協議会  による「インターネット上の医療情報の提供と利用の実態に関する調査研究」から、市民がインターネットを通じてどのように医療情報を収集しているかが垣間見える。まず、ウェブを利用して必要な医療情報を得ることについては市民の間にかかなり定着してきた。実際に病気などに関する情報を得た人は40%を超え（資料3-5-1）、回答者の多くはさらに積極的に利用したいと考えている。

一方、受診以外の方法で医療相談をする場合、インターネットは多数の人が挙げる選択肢ではない。その理由としてはインターネットを利用できないという場合がある。また、電子メールを書いて一定の時間の後に助言者からのメールを読む、相手の顔は見えないというやりとりには馴染めないものを感じるのであろう。しかし、今後期待するインターネットの利用方法には医療相談の他

に、医師との意思疎通、在宅患者への医師のサポート、患者同士の交流などが挙げられており（資料3-5-3）、年を追って電子メールなどの利用が進んでいくと考えられる。

なお、上に述べた個々の症状などに基づく個別の医療相談については、インターネット上で個人の医療情報を流通させることについて、情報の漏洩・改竄・悪用を防ぐための工夫が必要と考える人が多い。その対策としては、個人情報特定される情報を送らない、法律で規制する、暗号化などの方法が必要と考えられている（資料3-5-4）。

（越智元郎 愛媛大学医学部）

 <http://www.jima.or.jp>



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)